

発行所
青森県高等学校・障害児
学校教職員組合
青森市橋本1丁目2-25
教育会館 017(734)7287
編集発行人 酒田 孝
購読料一部20円は組合費
の中に含む

○憲法3000万署名のご
協力をお願いします。皆
様の一筆で
改憲勢力を
押し返しま
しょう。



Eメール aokokyos@olive.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/aokokyoso/> ブログ <http://plaza.rakuten.co.jp/sannkyoso05/>



ロックフェラーセンターと有名なクリスマスツリー

妹子の

新春特別寄稿

ニューヨーク檄場

★銃所持という
「ライフスタイル」

2018年の初めにあたり、現在、アメリカ留学中の「映画檄場」執筆者の大野妹子さん(高松青森高教組執行副委員長)から、ニューヨークでの生活についてのレポートをいただきました。アメリカでの生活の1ページを覗いてみましょう。

ウーマンラッシュユアワーという吉本の漫才が、今、日本で注目らしいと聞き、アメリカでユーチューブを見た。驚愕の漫才だった。というのは、原発・辺野古問題や腐った政権、マスコミ等を、全編辛辣に批判しまくるといふ、吉本には有るまじきネタの連続技だったからだ。会場は爆笑の渦。最後、日本に問題は色々あ

るが、本当に問題なのは意識が低すぎる国民。それは「お前たちのことだ」と、無様に笑っている観客を指差し、堂々と退場する。凄いい、凄すぎる。私は部屋の中で「よし」と、独り絶叫していた。

私は昨年9月から、NY州立コミュニティカレッジに留学中で、ユースホステルに似た施設に住んでいる。そこには私を含め、日本人留学生が8人いるが、彼らも大半が政治に無関心だ。留学し



ブロードウェイにあるミス・サイゴンの劇場

ているのにアメリカの政治もよく分かってない。政治の話題になると「話が暗い」とボソリと言う者、今まで奇声をあげていたのに急に無口になる者、スツと立ち上がり去って行く者…。聞きたくないという意思表示が明確で、その部分は妙にアメリカ化されている。見事なほどだ。

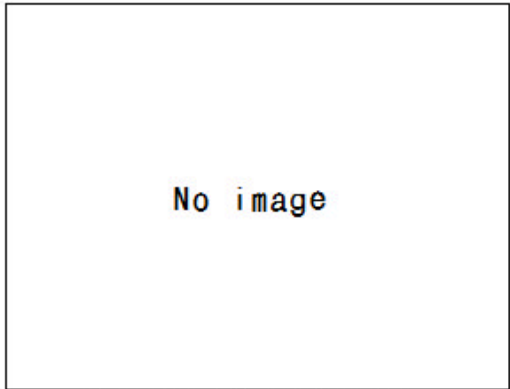
その中にブロードウェイの舞台に立つ夢を持つ女子Nがいる。Nとは少し政治の話が出来、それが私の救いだが、彼女が熱狂する『ミスサイゴン』を先日見る機会があった。そして初めて知ったのである。『ミ

坂道の風

私たちの心が安らぐときはいつなんだろう。家に帰って、風呂に入ったとき? ビールを飲みながら夕食を囲むとき? 通勤で夕焼けや豊かな自然の綺麗な風景に触れたとき? 家族団らんするとき? ▼私たち教員は極度の緊張状態に置かれていることが多い。なかなか、自分の心は解放されず、常に仕事に追い回され、生徒のことを思い、世間の目にさらされている感覚がある。心が安らがない状態が続けば、当然、体や心は悲鳴をあげる。▼字を書くために、静かに硯に向かっていると、墨を擦っていると落ち着く。好きな運動をしているときも、疲れているにもかかわらず心は爽快だ。緊張した精神状態から抜け出すには、いつもとまったく違うことをすることがいいようだ。なんでもいい。少し、自分の普段の生活環境から抜け出し、リズムを変えるのがいいだろう。人それぞれ、リフレッシュ方法にも好き嫌いがある。自分に合った安らぎをどこかでつくりたいものだ。体や心を病ませないために。(多夢)

*2面に続く

「スライコン」が反戦ミュージカルだということ。舞台はベトナム戦争時の娼館で、米兵とベトナム人娼婦のよくある純愛物語が主軸。ただ、米兵とベトナム人の混血・戦争孤児「ブイドイ」の写真が映し出され、彼らは「我らの罪の証。忘れない。彼らは皆我らの子」と、「元米兵が朗々と歌う場面が山場の一つになっている。キムが自殺するラストでは、一緒に行った男子学生も感動の鼻水を垂らし、もう一度見たいと言っていたほどの作品であった。しかしである。残念なことには客席がガラガラなのだ。「ガラガラ」は言い過ぎだが、クリスマス時期にもかかわらず、客の入りは



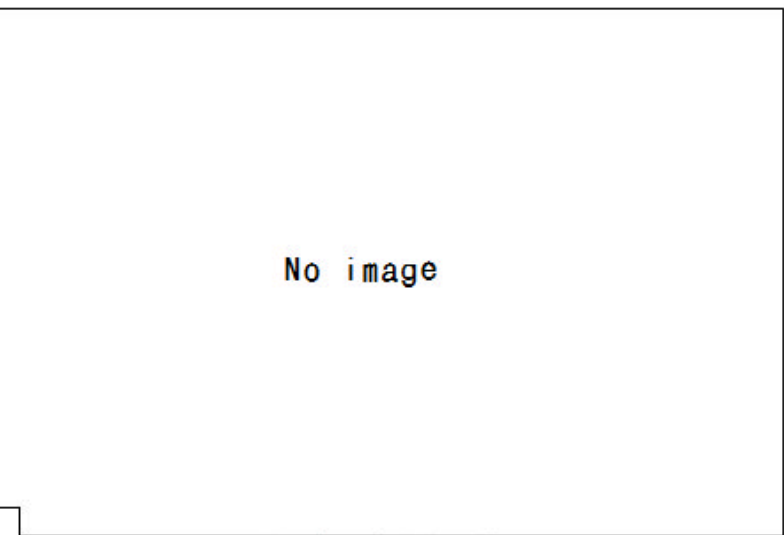
RCCのキャンパスライフ～その1～

半分程で、既に今年1月14日の終了が決まっている。同じブロードウェイの『アラジン』や『ウィキッド』は、券を入手するのも大変で、良席は1枚2万円程らしいが、私は今回『ミスサイゴン』を約4千円で見た。しかも前から7列目。えれえ違いである。日本でも文化の幼稚化傾向は明らかで、いい年をした大人も「ファンタジー」を見ている。「どこかに不思議な力があって、いつか願いを叶えてくれる」的な話、大人が信じているフシもある。そんな中、娼婦が下着姿で腰を振る悲しいリアリティはウケない世の中なのか。あるいは、トランプ大統領持論の「力による平和」を支持する好戦的風潮が、再びアメリカに広がっているのだろうか。私の近所に住む中年夫婦が言っていた。「今アメリカでは自衛のため銃を持つべきということが、既に政治問題ではなく、ライフスタイルになっている。従妹にもトランプに投票した人がいたが、信じられない」と。私の周囲には反トランプが多いが、様々な意味の分断がアメリカでは進んでいる気がする。それは、次で話題にする人種面で顕著だ。

★社会的多様性という「おばちゃん」天国

アメリカには定年がない。求人には社会的多様性が義務付けられ、人種・性別・年齢・宗教などで差別できない仕組みなので、本人が希望する限り何歳までも働ける。実際、私が通うロックランド・コミュニティカレッジ(RCC)で最

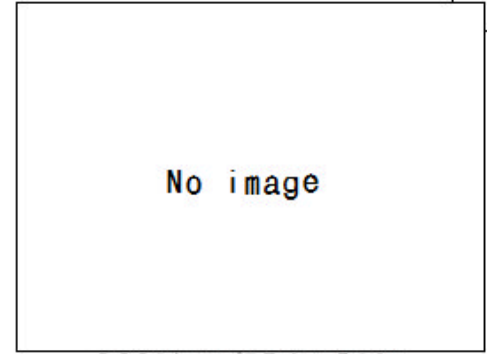
初に気づいたことは、「おばちゃん」職員が異常に多いということだった。明らかに私より年上。60代は当たり前で、ひよっとして70代と思われる女性は何人も活躍している。公式データでは、RCCに勤務する教員で女67%、男33%。なんと女性が男性の二倍もいる。年齢のデータは残念ながらなかったが、平均年齢は相当高いだろう。中高年の女性労働者の多さは、RCCに限らず至る所で見られる。銀行に行ったら、70代と思われる窓口嬢がいて、私に現金を渡す手が微かに震えていた。しかも、私に渡すはずの現金を、せっかく抽斗から出しておきながら、震える



No image

RCCのキャンパスライフ～その2～

ただ気になるのは人種問題である。日本人は「アメリカ人＝白人」の印象が強いが、実は違う。いわゆる有色人種が非常に多い。RCCのデータによると、生徒の約42%以上が有色人種(アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック・アジア等)、白人が40%で有色人種の方が多い。一方、教育職員を見ると白人が80%と生徒の白人率の2倍になり、有色人種がたった17%と激減する。圧倒的多数の白人教員が、有色人種の状態を十分理解した教育ができるのかという指摘もある。多様性を掲げるアメリカだが、現実とは乖離していることを、日々実感する留学生生活である。



No image

RCCのキャンパスライフ～その3～



新年のご挨拶



青森県高等学校・障害児学校教職員組合

執行委員長 酒田 孝

明けましておめでとございます。

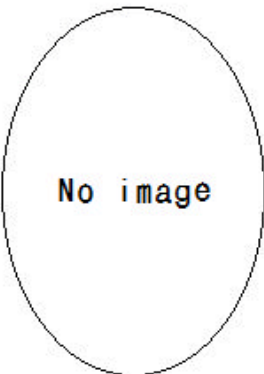
昨年、夏に里見実先生とお会いしました。里見先生はブラジルの教育学者パウロフレイレの著作の翻訳などで知られる社会教育学者です。温和な人柄と言葉の深さにすっかり魅了されてしまいました。2日間にわたって里見先生のお話を伺うことができたのですが、そのなかでもっとも印象深い言葉は、「プラン・プラン」と「プロジェクト・プロジェクト」でした。どちらも「計画」という意味の言葉です。

「Plan」は「Plain(平ら)」と同義で、そこから「設計図」「計画」という意味が派生しています。この言葉から徹底的に危機管理をしてリスクを排除し、文字通り「平ら」にすることによって計画を実行しようとするアメリカ的な合理主義の姿が浮かび上がってきます。教育もその例外ではありません。日本の学校はルールや校則などで徹底的に子どもをコントロールしようとします。その結果、生徒が全く話をしない授業や、予定調和的な生徒会活動などが実現しました。

いっぽう「Project」は「前へ・投げる」という意味で、「戦略」「投機」とも訳されます。里見先生によるとこれは博打用語だそうで、予測不能な相手に対しての「出たとこ勝負」、「一か八か」の世界です。博打と同様、子どももまた予測不能です。何をするかわからない子どもに対して、子どもの動きを縛るのではなく、こちら側が十分に準備しつつ臨機応変に対応し、場合によっては目的自体も柔軟に変更してしまおう。それがProjectとしての教育のイメージです。そこには人間への信頼と、成長する存在としての子どもへの温かな眼差しがあります。

教育をプロジェクトとして行おうとする場合、私たち教

プロジェクトとしての教育を



師は傷つきやすい(ヴァルネラブル)存在として子どもの前に立つこととなります。「傷つきやすさ」は不安を生みますが、逆に他者への配慮や想像力、生きる知恵や勇気という積極的な面も生み出します。

昨年、ある学校では夏休み中に22回の夜間巡視が行われました。中には日曜日の22時集合というものでありました。またある学校では校則を破った生徒に対して機械的にイエローカードが切られ、その累積枚数に応じて処分が科されています。それらの業務や指導によって生徒が成長するとは思えないので、それらはおそらく教育とは別の物なのだと思います。私たち教員は日々、このような教育や学校とは関係のない仕事に忙殺されています。学校は、リスクを排除するための膨大な量の仕事に覆い尽くされているのです。

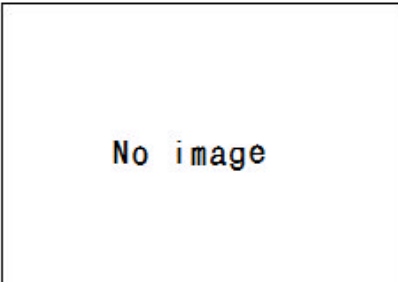
教師の多忙化が社会問題になっています。昨年8月、中教審は「学校における働き方改革に係る緊急提言」を出しました。もちろん、文科省や教育委員会など行政による上からの指導も必要ですが、学校での議論や一人ひとりの意識改革も不可欠です。「教師の本来の仕事は何か」ということを基軸に仕事を見直すことは、決して学校教育の水準を下げることにほなりません。むしろ教育の質を向上させることにつながります。高教組は今年、多忙化解消に向けて職場ごとの議論を呼びかけていきます。

里見先生は「子どもの不確定性と渡り合って、それと戯れていくことを放棄しちゃうと、これは本当に教師が無能になっていく」と指摘します。教育という営みは常にプロジェクトであらねばならないという里見先生の言葉は深く、そして重いものでした。

課題を共有し、対話を広げよう!

第129回青森高教組中央委員会

12月9日、浅虫温泉「辰巳館」にて、青森高教組第129回中央委員会が開かれました。県内各支部より中央委員が参加し、活発な討論が交わされ全部で19人が発言しました。本文以外に、高校における通級指導教室について、教員免許更新制度について、全国教育署名・憲法3000万署名の推進、採用報告、個人情報保護について、学校備品の取り扱いについてなどの話題が語られ、現場での困難な状況を共有するとともに、明日からの組合運動に向けて、気持ちを高めることができました。



組織拡大

今年度はなかなか対話が進んでいない現状が報告されました。その中において、支部単位で全分会訪問を計画・実行した支部からの発言、全教共済の職場賞を獲得している分会からの発言もあり、励まされる思いになりました。これらの

No image

再任用問題

再任用者の「待遇改善」についての要望が出ました。「現在の待遇はひどい。現職時そのままの仕事を持たされて、諸手当もつかず本俸が6割へと削減される。また、年休の繰り越しができない、生活にかかわる手当が支給されない」と報告されました。また、日々雇用者にも年休が欲しいという声がありました。「定年延長」の動きも加速化しています。高教組として再任用者や日々雇用者の

自衛隊と学校

自衛隊が様々な形で学校現場に入り込んでいる状況が報告されました。ある特別支援学校では、音楽教室として「自衛隊音楽隊」を招き、演奏を楽しんだのですが、そのあとに、「自衛隊員と交流」と称して、自衛隊車両を見学したり、制服を着て写真を撮ったりしたそうです。音楽鑑賞としてはよいが、そのあとの交流は自衛隊のPRになっ

取り組みや全国での取り組みに学びながら、「まずは対話する」ということが大切ということを再確認しました。

声も聞き、要求をしていきたいと思います。

自衛隊が様々な形で学校現場に入り込んでいる状況が報告されました。ある特別支援学校では、音楽教室として「自衛隊音楽隊」を招き、演奏を楽しんだのですが、そのあとに、「自衛隊員と交流」と称して、自衛隊車両を見学したり、制服を着て写真を撮ったりしたそうです。音楽鑑賞としてはよいが、そのあとの交流は自衛隊のPRになっ

青森高教組第129回中央委員会特別決議

安倍政権はこの5年間で次々と憲法違反の悪法を強行成立させてきました。2013年12月「特定秘密保護法」、2014年7月「集団的自衛権の行使容認」を閣議決定、2015年9月「戦争法」、2017年6月「共謀罪」法と、全てが強行採決によって「戦争する国」づくりを推し進めてきました。その総仕上げが9条の改憲です。海外でアメリカとともに武力行使できるように「憲法9条破壊」をねらっているのです。今年4月に行われた読売新聞の調査でも89%の人が憲法の果たしてきた役割を「評価している」、82%の人が「憲法9条は平和と安全に役に立っている」など、どの世論調査でも、現行憲法は国民から支持されています。憲法を変える必要は全くないのです。

しかし、安倍政権は北朝鮮のミサイル発射を「困難」であるとして、事前にその発射される事実を把握していたにもかかわらず早朝から「アラート」を鳴らし、いたずらに国民に対して北朝鮮ミサイルへの危機感をおおっているのです。北朝鮮問題で何よりも大切なことは「戦争を起こさないこと」です。軍事力により圧力をかけるという対応一辺倒では、ますます緊張を高めるだけです。対話こそが解決への道です。9条という平和憲法を持つ日本だからこそ、対話を呼びかける先頭に立つことができるのです。テロも武力では根絶できません。意見や宗教の違いを超えて話し合いを進める以外に解決の道はありません。これからは9条を生かした外交努力こそが求められているのです。

今年のノーベル平和賞は、国際NGO「核廃絶国際キャンペーン(ICAN)」に贈られました。今年7月に122か国が国連の核廃絶条約に賛成し、採択しました。しかし、米英など、核保有9か国に加え、世界で唯一の被爆国である日本も賛成しませんでした。ノーベル委員会のペリ・レイス＝アンデルセン委員長は、核兵器を条約で禁止しようとするICANの「画期的な努力」を受賞理由に挙げました。「私たちは、核兵器の危険がこしばらなくなったほど高まっている世界に生きています。」と述べ、北朝鮮の危機にも言及し、その上で、核保有国に対して核兵器の段階的な廃絶に向けた交渉を開始するように呼びかけました。

昨年11月から今年の春まで、南スウェーデンに派遣された青森県の陸上自衛隊第9師団のみなさんは1人も欠けることなく何とか無事に帰国できました。しかし、現地での日報は隠され、つい最近になって、宿営地に着弾していた事実も明らかになりました。私たちの教え子を、私たち国民の命を守ってきた自衛隊のみなさんをこれ以上危険な目に合わせるわけにはいきません。

衆議院において3分の2を改憲派が占める中で、安倍9条改憲を食い止める戦いはここからが正念場です。市民と野党との共闘を広げ、「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンを高く掲げ、安倍教育再生ストップ、憲法3000万署名の推進、憲法違反の特定秘密保護法、「戦争法」、共謀罪法の廃止、立憲主義を取り戻す運動に全力をあげていくことをここに決議します。

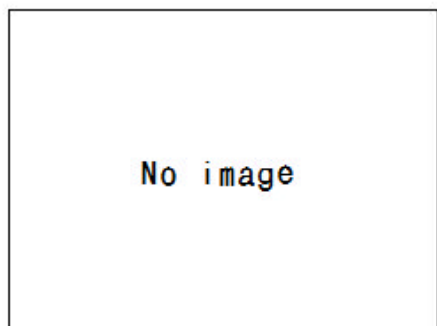
2017年12月9日 第129回中央委員会

修学支援制度

「就学支援金」、「奨学のための給付金」について、事務職員配置と高教組で行っている「主任手当拠出奨学金」との関係についての議論がありました。事務職

のPR、リクルート活動が学校現場で課題になっています。自衛隊はいろいろな形で学校現場に入り込もうとしています。自衛隊がらみの行事が企画された際には、ねらいを明確に確認し、PRに使われないよう声を上げることが必要です。

高教組で行っている「主任手当拠出奨学金」を受けると、「奨学のための給付金」が受け取れなくなる可能性があることを



No image

現場の実情などを話し合った中央委員の皆さん

好回答なしも、微速前進あり

統一要求書課長交渉

12月19日、県教育委員会室にて統一要求書について県教委課長交渉を行いました。今回の主な要求項目である、多忙化解消のための取り組み、パワーハラスメントの根絶、新採用者の負担軽減、再任用者の手当、そして臨時教職員の「空白の一日」の解消を含む待遇改善等についてやりとりしました。

※高・高教組からの要望、県・県教委各課課長からの回答

多忙化の解消

高・全ての教職員が年次有給休暇や病気休暇などの休暇を取得できるよう管理職を指導し、徹底すること。お盆期間1週間を閉庁期間とし、全ての県立学校を休みとすること。

県・年次休暇の取得については、「年次休暇及び夏季休暇の計画的な利用について」の通知を发出し、計画的、効果的に休暇を取得するように所属職員に対して強く働きかけるなど休暇の取得促進のために通知したところである。また、閉庁期間については全国6県で導入しており、閉庁期間中の連絡の整備がどう整理できるか研究中である。

高・勤務時間の管理も職員にとっては負担なので、さらに一歩進めてICカード

パワーハラスメント

高・パワーハラスメントについて、第三者による相談窓口(男女両方に対応)と苦情処理機関を設置すること。

県・パワーハラスメントのリーフレットを作成した。校内研修で活用し、意識啓発活動をしている。各校に指導の徹底をお願いしている。

高・現場からの声では、パワーハラをしているのはほぼ校長か教頭である。その教頭が相談窓口であることや、県教委からの調査の依頼を受けて調べるのが校長本人では話にならないのではないか。第三者による相談窓口の設置と苦情処理機関を問題解決のためにぜひ作ってほしい。

初任者の負担軽減

高・「初任者研修実地研修にかかる配慮事項」に沿った初任者研修を行えるように、適切な人員配置を行い、初任者の負担を軽減してほしい。

県・「配慮事項」を年度末に配っているが、年度初めに時間割などの配慮をしてもらうためである。初任者は月2回研修があり、学級担任を当てないようにもらっている。

高・しかし、現場では高校でも特別支援学校でもたくさん初任者が学級担任をしている現状である。1年目の研修があり大変なのに、担任の業務もこなさなければならない。

No image

再任用者の寒冷地手当

高・再任用者は、現職と同じ仕事を任せながら6割の給料である。賃金と手当の大幅な見直しと改善を要求する。特に寒冷地手当は青森県においては必須の手当である。ぜひ支給してほしい。

県・寒冷地手当の要求は理解できる。支給できるかどうか、国と同様に整理している。我々としてはみなさんの要望を人事委員会に伝えている。

高・臨時講師に教育職(一)表2級を適用し、賃金の最高号俸打ち切り制度を廃止する。現在彼らが担当している職務は正規の教諭と同じである。同じ仕事をさせるのであれば、同じ身分待遇にするのは当たり前の話である。12月11日に全教本部で文部科学省と交渉をした。組合側から「職務内容が教諭と同じであれば、2

臨時教職員の待遇改善

高・臨時講師のみ皆さんの力で学校が成り立っているのはわかっている。

高・合わせて辞令の「空白の一日」も見直ししてほしい。

級で任用すべきということではないか?と尋ねたところ、「それが職務給の原則だ」と文科省は回答した。

県・臨時職の実態調査をまとめている。臨時講師の年齢や職責などの状態は変わってきた。県教委としてもスタンスを大きく変えていかなければいけないと思っている。「会計年度任用職員」の導入も迫っている。1級の上限を4号あげると毎年7千万円必要である。予算的には厳しいが、検討しているかと思っ

No image

高教組の要求に回答する県教育委員会

主任手当拠出奨学金

高・青森県国公立高校生等「奨学のための給付金」の給付対象者について、青森高教組が実施している「主任手当拠出奨学金」の対象者も給付金を受け取ることができるように、給付対象外とする規定の(2)を見直ししてほしい。高教組の奨学金は3万円である。他県では併給を認めている例もあるので、見直しできないだろうか。

県・国の制度であるので、文科省に確認した。規定を見直すという事は難しい。規定は変更できないが、規定の取り扱いを今後検討していく。

教育条件整備を

みんなの力で！ ゆきとどいた教育を求める

全国署名集約集会

No image

12月8日、東京「法学館」で、表記の集会がありました。集会に先立ち、国会議員への要請行動も行い、県選出の議員に、紹介議員になってもらえるよう、要請しました。集会の最後には、渋谷でのパレードが行われ、多くの皆さんに、「ゆきとどいた教育の実現」を訴えました。高教組から1名、県教組から1名、保護者1名、私学から多数が参加しました。

この署名運動は今年で29回目、これまでの署名総数は5億筆となります。毎年同じ署名をしているので、またか、と思う人も多いかと感じていますが、この署名運動があったからこそ、教育条件整備が少しずつでも進んでいるのです。(少人数学級の実現など)。安倍政権は「教育の無償化」をうたっています。保育環境整備や大学進学支援も重要ですが、そこだけではなく、小・中・高校・特別支援学校の教育条件整備や教

No image

教育条件整備を訴えて渋谷をパレード



北欧、10万歩のキセキ その4～スウェーデンの特別支援学校

スウェーデンは世界有数の高福祉国家である。今回は2校の視察を行った。スウェーデンではインクルーシブ教育は、現在の時点で「自明のこと」とも考えられている。スウェーデンでは、教育の枠組みは国が作成し、市の教育委員会が

教育計画を立て、各学校がそれを踏まえた独自の計画を実施する。障害児の教育は普通学校(小中一貫校)と同一の敷地内に設置されている養護学校で行われており、休み時間には双方の校舎から子どもが出てきて校庭で混在して遊んでいた。同じ給食室で給食を食べたりしていた。いわゆる「場の統合」として、障害児学校はあることになる。

健全児、障害児を問わず全ての子どもにIUP(個別の指導プラン)を作成し、国で定めた指導要領に従ったレベルに達しない子については個別の援助プログラムを作成し、そのプログラムに沿って、就学の場、教育の内容、生活支援がなされる。障害児学校では、教

No image

現地の先生と懇談

員、介護職、アシスタントチームになって1人の児童・生徒に関わっている。視察した学校での指導は、「応用行動分析」「構造化」で、個別的に行われており、教育効果を求めて、教材の与え方を定期的に検討し、効果がなければすぐに修正している。個別的な対応だ

けではなく、友達や教師と関わりながら、言葉と動作を一致させる授業なども行われていたし、場の特性を生かして、通常学校にいる子どもたちとも関わる時間も確保するようにしているなど、「個に応じたインクルーシブ教育」の一つの姿を見たように感じた。

スウェーデンで重視しているのは人権・個の尊重であり、そのために国がどのような施策をするのか、ということになる。健全児には、その子に応じて身につけさせたい力があり、障害を持つ子にも将来の生活を考えて、その子に応じて身につけさせたい力がある。そのバランスが取れている教育制度だな、という印象を持った。(黒沼修)

全教自動車保険
教職員のための自動車保険

えらんでもいいですか?

- 「被害者救済・加入者保護」の事故対応で教職員を守ります
- 教職員のための安心・充実の補償をご提供しています
- 教職員のカーライフをトータルでサポートします

全教自動車保険は、全日本教職員組合が東京海上日動と提携して実施する自動車保険です。

全教共済

2017年 キャンペーン

職場賞進呈!

お二人で

- 教職員の助け合い『組合共済』加入
- または 自然災害も補償する『火災共済』加入
- または 教職員の身分を守る『自動車保険』お見積もり

【お菓子セット(2000円相当) 職場チャータータイムに皆さんでお楽しみください】

キャンペーン期間 2018年3月15日まで